

1.

問1 道 (2点) 問2 儒 (2点) 問3 イ (2点)

問4 [甲] エ [乙] ア [丙] ア (完答で3点)

問5 王朝：ア (2点) 初代皇帝：ア (2点) 問6 ア (2点) 問7 ア,イ,オ (完答で3点)

問8 エ (2点) 問9 年号：エ (2点) 指導者：エ (2点)

問10 [甲] エ (2点) [乙] イ (2点)

問11 ウ (2点) 問12 [甲] エ (2点) [乙] イ (2点)

問13 エ → ア → イ → ウ (2点)

問14 五経 (2点) 問15 ウ (2点)

解説 参考文献: 講談社『中国の歴史 (旧版)』全10巻

問3

小国寡民は『老子』の中に現れる言葉である。「小国寡民、什伯の器有るも用いざらしめ、民をして死を重んじて遠く徒らざらしむ。(『老子』第80章より)」老子は原始的な小さい共同体を理想とし、文明から離れた素朴な暮らしこそが人為のない自然なあり方だとした。

合従は、縦横家の蘇秦が、韓・魏・趙・燕・斉・楚の6国に持ちかけた外交政策で、6国の併合を狙っていた強国・秦に抗する小国同士の同盟のことである。一方、同じく縦横家の張儀は連衡を説き、6国に個別に秦との同盟を結ばせることで、合従を破り、秦の天下統一を実現させた。

人之性悪は、荀子による主張で、孟子の性善説に対する性悪説の立場を表す。荀子も孟子も儒家であったが、内面的な道徳を重んずる孟子に対し、荀子は外的な法による規律を強調し、その思想は法家の韓非子らに受け継がれた。

問6・問7

中国歴代王朝の版図や都については、教科書等に掲載されている地図を参照されたい。

問8

孔子は、周代の政治家・周公旦が定めたとされる礼や封建制度を、理想の統治のあり方と考えていた。『論語』には、孔子の周公旦に対する敬愛の深さが垣間見れる一節がある。「甚だしいかな、吾が衰えたるや。久しいかな、吾れ復た夢に周公を見ず。(『論語』「述而」7-5)」ここで孔子は、老いによって憧れの周公旦と夢で会うことも無くなったと嘆いている。

問9

旧中国は中華人民共和国の成立（1949年）以前の中国を指す。

安祿山らが起こした安史の乱（755～763年）、洪秀全の太平天国の乱（1851～1864年）、そして孫文の辛亥革命（1911～1912年）は、いずれも選択肢に適合する年号がない。安史の乱と太平天国の乱は、当時の王朝に大きな打撃を与えたものの、王朝の交代ないし政体の変更を直接もたらしていないため、そもそも革命と言えない。

問 11

仏教が中国に伝わったのは漢代以降とされる。なお秦代には、始皇帝に登用された法家の李斯によって儒者が激しく弾圧された。この出来事は焚書坑儒と呼ばれる。李斯はまた、戦国時代には各国でバラバラだった漢字の字体を小篆に統一した。小篆を崩したものは隸書と呼ばれる。隸書は現在用いられている草書・行書・楷書の元である。

問 12

江南開発に関する設問であった。占城稲は現在のベトナム中南部にあったチャンパ王国原産の早稲で、これの導入により二毛作や晩稲との二期作が容易になり、江南における収穫量は増加した。もちろん鋤や圃田といった農業技術の進展も生産力の向上に寄与しているが、設問の空欄には当てはまらない。また、度量衡や漢代の均輸・平準法はこの設問と無関係である。

問 13

中国を統一した秦は、さらに北方に蒙恬を派遣して匈奴を追いやり、現在の広東省からベトナム北部にあたる地域には南海郡・桂林郡・象郡の3郡を設置した。始皇帝の死後の秦は、陳勝・呉広の乱などの混乱が相次ぎ、3郡が占めた地域は南越国として自立した。しかし、垓下の戦いに劉邦が勝利して漢が中国を統一した後、7代皇帝の武帝の時代に南越国は滅ぼされ、再び南海郡が設置された。

問 14

五経は『周易』『尚書』『詩経』『礼記』『春秋』の5つを指す。唐の太宗（李世民）は、孔穎達らに五経の注釈書『五経正義』を作らせ経典の解釈を統一、儒教の集権化を強め、隋代より続く科挙制度の整備に貢献した。なお、『大学』『中庸』『論語』『孟子』の四書が、五経と並ぶ儒教の基本経典とみなされるようになったのは、宋代以降の朱子学の流行によるところが大きい。朱子学を大成した南宋の朱熹は、孔子や孟子の教えをとりわけ重視して四書の注釈を書き、儒学の新しい体系を確立した。四書は元代に科挙の科目に加えられ、明代には永楽帝の命で『四書大全』が編纂された。

問 15

陳独秀は1915年に雑誌「新青年」を創刊し、「デモクラシーとサイエンス」を掲げて西欧近代の思考を紹介しつつ、儒教を始めとする中国の伝統的な文化を徹底的に非難、魯迅や胡適、李大釗らとともに新文化運動の中心人物となった。また、中国共産党の設立者の一人としても知られている。

太平天国の乱の鎮圧で功績を挙げた曾国藩や李鴻章は、西洋の技術の取り入れによって

国力の強化を目指す洋務運動を主導したが、「中体西洋」のスローガンに示されるように、中国伝統の文化や制度を覆すものでは全くなかった。

変法運動を主導した康有為は、洋務運動に対抗して国家の根本的な変革を主張しつつも、孔子については「変法」の立場とみなしてむしろ評価している。

2.

問 1. イ→ウ→エ→ア	問 2. ア、エ	問 3. ウ、エ
問 4.① イ	問 4.② ウ	問 4.③ ア
問 4.④ エ	問 5. ウ	問 6. イ
問 7. エ		

(各 4 点)

3.

問 1 イ

ア ニハーヴァンドの戦いは 642 年である。また、最後の皇帝ヤズドギルド三世は捕らえられていない。

ウ、エ 逆

問 2 に→ほ→は→ろ→い

問 3 エ

ア 同じイスラム勢力に対してガーズィー（戦士）としてガザー（聖戦）はしない。もちろんルーム＝セルジューク朝とは戦ったが、大セルジューク朝の地方政権であるダーニシュマンド朝は大セルジューク朝とは戦うことはできない。

イ ムガル朝五代目君主はシャー・ジャーハーンである。

ウ サラディンはクルド人である。

問 4 エ

ア サファヴィー朝の軍制を支えたのは赤い頭を意味するギジルバシである。ムハンマド常勝軍はオスマン帝国のイエニチェリに代わる軍隊である。

イ、ウ どちらもタブリーズではなくカズウィーンである。

問 5 (1) エ (2) い.オ ろ.イ

(1) ア ティムールに敗北したのはアンカラである

イ モハーチの戦いで敗れたのはハンガリー王ラヨシュ二世である。ヤン三世ソビエスキは第二次ウィーン包囲を破ったポーランド王である。

ウ 残念ながらゲンチ・オスマンはそんなに強くない。

(2) ア.メフメト四世 ウ.スレイマン一世 エ.アブデュルメジト一世
カ.ムスタファ二世

問6 イ

本拠地はバグダードではなくコンヤである。

問7 アフガーニー